

昨年12月19日に瑞穂市議会定例会において、一般質問をさせていただきますました。

今回の質問内容は、「瑞穂市指定ゴミ収集袋の品質向上と広告導入事業」「災害関連死を未然に防ぐ備え」についての2点です。その趣旨をまとめご報告申し上げます。



ゴミ収集袋の品質向上と広告導入事業

地域の方々とお話をさせていただいた折、当市の指定可燃ゴミ袋が破れやすいという話題で特に女性の方々と盛り上がりました。その時、思い出したのが中学校の運動会に向けたPTA奉仕作業で刈り取った草木を生徒がゴミ袋に詰める際、固い草や枝が当たりゴミ袋が裂け目だらけになった光景です。

そこで、ゴミ袋を比較するため当市と同様、一般廃棄物（可燃ごみ）処理を西濃環境整備組合に依頼している10市町のうちゴミ袋の指定制のない大垣市を除く、本

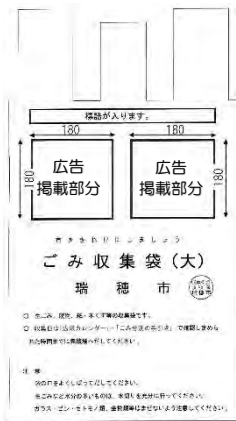
業市、北方町、神戸町、輪之内町、安八町、揖斐川町、大野町、池田町と当市を合わせた 9つの市町のゴミ袋を調査し、次の質問や要望を行ないました。

問 指定ゴミ袋のサイズや素材について市民のニーズや感覚を把握するためのアンケートやモニタリング調査実施の有無と今後の予定は。

問 当市と同じ素材（高気密ポリイチレン：引っ張っても破れにくい反面、小さな穴が開くとそこから縦に裂けるという特性を持ち、手触りはパサパサして紙など軽量物向き）のゴミ袋を採用している他の4市町の厚みを比較すると当市のもが一番薄く、外形寸法は当市のゴミ袋は、幅50cm・長さ90cmであるが、大半の市町は、幅65cm・長さ80cmと幅広で長さが短い。また、色について半透明でなく乳白色のものがある。他市町の品質・寸法等も確認し、改善を実施する考えは。

問 当市ではゴミ袋を広告媒体と考え、企業広告枠を設定し、民間企業・団体へ販売を開始したが、広告主の募集に苦労したその要因は、広告料金の設定方法に問題があるが、それ以上に当市のゴミ袋に問題があると考ええる。それは、

他の市町と見比べると文字が細く基調色が黒である。また市のマーク等の記載もない。つまり、ゴミ袋自身が広告媒体としてのデザイン性が非常に乏しい。そこで、文字を本業市のような太いゴシックに、色を瑞穂市のイメージカラーの緑色や富有柿にちなんで柿色に変更する。袋の色を半透明から乳白色に変更する考えは。



広告掲載イメージ (瑞穂市のHPより)

望 広告付きゴミ袋の販売価格が従来のまま1枚50円20枚入り千円ということに問題はないのか？ 広告付きで同じ素材・規格のゴミ袋であれば、単価の引下げなり、20枚入りが21枚入りになる等のメリットを当然期待される。一方で、莫大なゴミ処理費用に対し、広告収入がごくわずかであり、還元するまでに至らないという

論理も理解するが、明治大学の川上教授によれば、市町村が所有する有形・無形の様々な資産を、民間企業への広告枠の販売、タイアップ、ネーミングライツ等の手法により、広告媒体として積極的に

有効活用することは、財政の「入り」に行政担当者が目を向け、税金は天から降ってくるものでなく、自前の収入も必要であるという意識やコスト感覚が養われる。収入そのものは事業費全体としては微々たる金額であるかもしれないが、一方では、地元企業との連携強化や地域活性化につながり、広告媒体（今回であれば、ゴミ袋）の質が、市民本位のものに改善されていくなどの様々なメリットをもたらすものがある。そこで、この広告導入事業において、近江商人の「売り手良し」「買い手良し」「世間良し」の「三方よし」の心得にならうと、「行政よし」「広告主良し」「市民よし」のトリプルWINを意識し進め、このゴミ袋の品質向上とデザイン性改善などを早期に実現されることを重ねて強く要望しました。

災害関連死を未然に防ぐ備え

中濃十市議会議長会・議員研修会での「熊本地震に何を学ぶか」の講演において、地震による死者が120名で、そのうち家屋の倒壊などによる直接死が50名。地震では助かったものの、避難生活を続け



皆様の想いをかたちに！

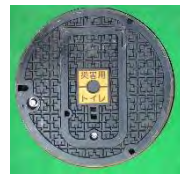
るうちに体調を崩して死亡した「災害関連死」が53名以上に上った。災害関連死の遠因として、高齢者、障害者、そして、幼い子どもやペットがいるために避難所の利用を遠慮し車中での生活を余儀なくされる人や、避難所で窮屈な環境で体を動かさずに座ってばかりいる人に発症しやすいエコノミークラス症候群が問題視されている。

その要因の一つに、設置された仮設トイレが、特に高齢者や障害者にとって使用しにくいものが多い。そのことが苦痛でトイレに行きたくなり、水分や食事を控えてしまう。結果、脱水症状や体力低下を引き起こす。また車中泊をしている人は、トイレの場所との距離が離れている場合が多く、トイレを我慢する傾向があるとの説明がありました。つまり、災害関連死を未然に防ぐにはトイレ環境の充実が不可欠です。

そこで、瑞穂市防災訓練をはじめ市内小中学校、地元自治会の避難所開設・運営訓練等に参加した際、トイレ対策を重点的に拝見し、次の質問や要望を行いました。

問 災害時のトイレには、建築現場でよく見受けられる仮設トイレ、小中学校等にある防災備蓄倉

庫に備蓄されています組立/簡易/携帯トイレのほか、「マンホールトイレ」という選択肢がある。避難所や市役所などの中枢機関施設において「マンホールトイレ」を整備する考えは。



マンホールトイレ

問 避難所で人の動線や外部への出入りしやすい場所等を考慮しつつ、乳幼児等の要配慮・要支援者の居住場所、授乳室、物資の保管所、ゴミ集積所等の配置などの部屋割りは、災害発生時の混乱の中で急いで考えるのでなく、事前に施設を熟知した教職員と自治会長をはじめとする地域の方と行政が、水害の場合・地震の場合など災害を想定し協議決定すべきである。また、起床・消灯の時間、朝・昼・晩の食事の段取り、ペット受け入れの可否、清掃・洗濯方法など避難所での生活ルールについても事前に協議する機会が必要である。そこで決められた配置・部屋割り、生活ルール案を、今回のような避難所開設訓練時に参加された方が確認・検証するのが望ましい姿と考えるが。

望 すべての人が避難所に行くの

ではない。家の中の方が安全だ、家を守りたい、避難所は大勢の人が寝泊まりをするため、体調面・衛生面で体の弱い高齢者が寝起きをするには不適切だと考えて、ライフライン等が止まっていても家の中で生活を続けた方が多くみえました。であれば、避難所の備蓄品同様、家庭においても、食料や水等の「体に入れる」ものの備蓄に焦点を当てるだけでなく、「体から出る」ものの対策とし

て携帯トイレやオムツ・生理用品の備蓄、また、停電対策品の購入など個人として事前に何を準備すべきなのか、市民各自が気づき考える機会づくりがとても重要であると思う。是非とも、広報紙や自治会、老人会、瑞穂大学、PTA等の集会の場だけでなく、出前講座、或いは小中学校での教育の一環として「非常時の持ち出し品・備蓄品」について、一層の啓蒙活動を行うよう要望しました。

非常時の持ち出し品・備蓄品 チェックリスト

災害後の救助や救援物資の到着までに、最低限必要なものは準備しておきましょう。

● 非常持ち出し品は、車手が使えるリュックタイプの袋などにまとめておきましょう。
● 避難の妨げにならないように、軽くコンパクトにまとめましょう。
● 自分や家族の状況に応じて必要なものを選びましょう。
● 自分に必要なものの優先順位を決めて準備しましょう。
● 定期的に中身をチェックしましょう。

貴重品

- 現金(小銭を含む)※公衆電話用に10円玉、100円玉
- 車や家の予備鍵
- 予備の眼鏡、コンタクトレンズなど
- 銀行の口座番号・生命保険契約番号など
- 健康保険証
- 身分証明書(運転免許証、パスポートなど)
- 印鑑
- 母子健康手帳

情報収集用品

- 携帯電話(充電器を含む)
- 携帯ラジオ(予備電池を含む)
- 家族の写真(はかれた時の確認用)
- 緊急時の家族、親戚、知人の連絡先
- 広域避難地図(ポケット地図でも可)
- 筆記用具

食料など

- 非常食
- 飲料水

便利品など

- 防災ずきんかヘルメット
- 懐中電灯(予備電池を含む)
- 笛やブザー(音を出して居場所を知らせるもの)
- 万能ナイフ
- 使い捨てカイロ

清潔・健康のためのもの

- マスク
- ビニール袋
- アルミ製保温シート
- 毛布
- スリッパ
- 車手か皮手袋
- マッチライター
- 給水袋
- 雨具(レインコート、長靴など)
- レジャーシート
- 簡易トイレ

救急セット

- 救急セット
- 常備薬・持病薬
- タオル
- トイレトペーパー
- 着替え(下着を含む)
- ウェットティッシュ

その他

- 紙おむつ(幼児用・高齢者用など)
- 生理用品
- 粉ミルク・哺乳瓶(赤ちゃんに必要なもの)
- その他自分の生活に欠かせないもの

ご自身の環境に合わせて必要なものを準備してください。

みなさんのご家庭では、いざという時のために防災グッズなどを備えていますか？「備えあれば憂いなし」。日ごろから災害などに備えるために、「非常時の持ち出し品・備蓄品チェックリスト」をご参考にしてください。

★日本赤十字社東京都支部のホームページより